

BS12 トゥエルビ

2016年1月5日

BS12 トゥエルビ

(ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社)

2016年 年頭の辞

ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社 代表取締役社長 森内譲による全役職員向け「2016年 年頭の辞」を下記の通りお知らせ致します。

記

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

2015年の我が国の環境を振り返ると、金融緩和や円安などを背景に企業業績の改善が進んだ一方、商品市況の著しい悪化、中国や新興国における経済成長の鈍化、中東やギリシャなどでの地政学リスクの高まり、自然災害など、明暗が交錯するまだら模様の1年でした。

2015年の当社は、中期経営計画で設定した2020年3月期の在り姿（目指す姿）と定量目標の実現に向けた個々のアクションプランが順調に進んだ年でした。機械式接触率調査やグループインタビューなどの分析に基づいた下期編成は、昭和の名作ドラマ『ありがとう』を筆頭に、BS放送の主たる視聴者層であるM3/F3以上からの大きな反響を得て、接触率の底上げや局認知の向上に大きく貢献しました。また、『BS12 歌謡ナイト～Jazzyなライブショー』や早朝時間帯の歌謡番組のベルト編成など、新たな番組企画や編成にチャレンジすると同時に、既存番組のバージョンアップを図ったことで、BS12 アベニュー（20-22時帯）の平均接触率も下期にかけて引き上げることができました。新たに開始した通販CMの受注も好調で、年間売上目標の達成が見えてきました。放送素材数は増えましたが、マニュアル整備など業務効率向上を図ることで、年間を通じ安全な運行が図れました。皆さん一人ひとりの責任感と、質の高い業務遂行力に改めて感謝します。

2016年のBS放送市場は、引き続き一定の成長が見込めるものの、4Kやネット配信など、放送の高度化へどう対応するか議論を深め、将来方向を固めていかなければなりません。また、2020年3月期の定量目標実現には、さらに高いハードルを越えていかなければなりません。

当社のバリューは、「自由な発想で、常に新しい番組のあり方とビジネスモデルに挑戦する」ことにあります。独自性を発揮し、これまで以上に全員一丸となってチャレンジしてゆきましょう。

最後に、皆様とご家族にとって、今年一年が実り多い年となることを祈念して、私の年頭の挨拶とします。

以上